



長崎市立三原小学校

寄り合っ、寄り添っ、みんなで育て、みんなで育つ～

「笑顔いっぱい！真剣いっぱい！感動いっぱい！の三原っ子」

MIHARA TIMES

令和5年10月18日発行

文責 校長 宮原 友彦

◆ 収穫の秋です！

三原に吹く風

秋は、いろいろなものが実る季節です。秋の恵みに感謝して、つい先日4年ぶりに長崎くんちがあったばかりです。ここ三原小でも負けずに、収穫の秋を迎えています。その一部をいくつかご紹介します。

◇ 高齢者疑似体験（4年生）10月10日



4年生は総合的な学習の時間で、福祉をテーマに学習をしています。

三原小は青少年赤十字の加盟校です。そのご協力を得ながら、「気づき・考え・実行する」子どもの育成を行っています。



車椅子を体験した子どもたちは、「段差が大変！」「坂があると介助する人は大変だし、乗っている人は怖く感じるね。」という感想をもっていました。

また、高齢者疑似体験を行った子どもたちは、「見える範囲が狭かった。」「体が重くて、思ったように動かなかった。」「椅子に座るとき、よく見えなくて、どきどきしたけど、介助の役の人が『ここにあるよ』と優しく声をかけて、手を椅子に触らせてくれたから、とても安心した。」などという感想が聞かれました。まさに、「気づき、考え、行動する」優しい子どもたちですね。

◇ 法教育（6年生） 10月16日

6年生は総合的な学習で、キャリア教育に取り組んでいます。キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」のことです。すなわち、個々の子どもたちが、社会の中で生きていくために不可欠な能力を育むことが、キャリア教育の目標です。具体的には次の4つの能力を伸ばすことを狙っています。

- ①人間関係形成・社会形成能力
- ②自己理解・自己管理能力
- ③課題対応力
- ④キャリアプランニング能力



今回は、弁護士の鷺見賢一さんをゲストティーチャーとしてお招きし、弁護士という仕事について、お話や弁護士クイズ、簡単な模擬裁判なども体験することができました。



法に基づいて、困った人を助けること、事実がよくわからなかったり、当事者の言い分に食い違いがあるときは「証拠」が必要なことなども学びました。

鷺見さんがユーモアを交じえながら、わかりやすく説明してくださったので、弁護士という仕事を身近に感じられたと思います。コロナ禍ではなかなかできなかった体験活動。「やはり百聞は一見に如かず！」ですね。

宮原のつぶやき

10月14日（土）に、育成協主催の「むかしあそび」がありました。めんこやコマ回し、紙飛行機とばし、とんとん相撲、だるま落としなど、私にとっては懐かしさ満載でしたが、子どもたちにとっては、目新しい遊びだったようです。私はコマ回しの担当でしたが、昔、一生懸命取り組んだことは体が覚えているもので、子ども相手にドヤ顔で教えられて、気持ちよかったです(^-^)